

☆オール沖縄、ノーサイドで

九月三十日行われた沖縄県知事選挙は、新基地建設反対を唱える玉城デニー氏が相手候補に八万票の差を付けて大勝しました。そこから見えてきたものとかこれらを訴えます。

際^{きわ}だった選挙運動姿勢

◆政権側が推す佐喜真陣営は、政府有力者、有名人を大量に投入、基地問題には一切触れず、候補者が日本会議のメンバーである事も言わず、期日前投票では投票用紙をスマホで撮って報告させるなど、なりふり構わぬやり方で選挙戦をおし進めました。

◆一方、玉城陣営は、翁長前知事の遺志を継ぎ、フェアに、イデオロギーではなくオール沖縄を前面に出し、政党の応援も極力前面に出さず、基地問題を真正面から訴えました。故翁長前知事の夫人は、喪中であるにもかかわらず、遂に応援の場に姿を現して夫の遺志と支援を訴えたのです。

八万票の差はもっと大きいのではないか

◆一九九七年、名護市の選挙の時、奥間政則さん（今年二月浜松での基地問題講演者）は土建会社の社員でした。会社から基地賛成の運動に駆り出された奥間さん達は、投票日、肩身の狭い思いで居酒屋の隅でテレビの選挙速報をみていました。そして、基地反対派が勝利したと報じられると、店にいた客はみんな肩を組んで喜んだとの事です。これは奥間さんが話された事です。

◆今年二月、基地賛成候補者を市長に選んだ名護市民。今回基地反対の玉城氏に票を投じた人が過半数を超えました。これが名護市民の本音ではないのでしょうか。

分断を乗り越え、オール沖縄、ノーサイドで

◆沖縄の人たちは、沖縄戦で捨て石にされ、土地を基地に奪われ、面積僅か〇・六パーセントの沖縄に七〇%の米軍基地を押しつけられて苦難を強いられてきました。この差別の実態に、基地など要らぬというのが、大多数の本音なのです。

◆しかし、政権側の餌（お金）と鞭（脅し、暴力）で県民は分断されてきました。選挙は終わりました。これでノーサイドです。これからは、玉城デニー知事の下、県民一丸となって、基地のない平和な沖縄作りに邁進してほしいと思います。

◆私たち「浜松市憲法を守る会」は、これからも沖縄の人たちと意思を一つにして、沖縄を支援して行きます。

二〇一八年十月十四日（日）護憲平和行進（通算620回目）

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

日本国憲法第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。